

子ども発達学科教授 星 三和子

1. 研究活動

| 論文 | | | |
|--|--------------|--|---|
| 1. ヨーロッパの最近の乳幼児・保育教育政策の動向 | 2012. 11 | 日仏教育学会年報第 18 号、139-145 | EU、OECD、および欧州各国ネットワークは近年乳幼児教育を国の最重要課題の一つとして力を入れている。その政策の考え方、策定プロセス、それに沿った研究等を分析した。そのような中でフランスの乳幼児期の教育の問題を挙げつつ、出現してきた新しい動向を分析した。 |
| 2. EU の保育改革とフランスの動向 | 2012. 12. 20 | 保育学研究 50 巻 3 号 128-131 | OECD 保育白書に示され、EU のヨーロッパ委員会の提言に引き継がれた保育改革の理念、フランスの動向を紹介しながら、日本の現下の保育政策の問題を分析した。 |
| 3. Origin and rationale of centres for parents and young children together | 2012. 12 | Child & Family Social Work, No. 19, 1-10. (Online edition) | 子育て支援の場は、ヨーロッパでも社会制度としてのニーズが高まり、増加している。日本、フランス、イタリア、ベルギーの子育て支援の歴史と現状を比較し、共通の問題を抽出して、親子と家庭支援における現代社会の課題を分析した。著者: Miwako Hoshi-Watanabe, Tullia Musatti, Sylvie Rayna & Michel Vandebroek |
| 4. フランスの子育て支援の発展と現状 | 2013. 3 | 名古屋芸術大学研究紀要第 34 巻、279-294 | フランスの子育て支援の変遷と、実際の子育て支援拠点の観察と聞き取りを通して、その機能の変化に伴う問題を分析し、合わせて日本の子育て支援の特徴をフランスとの比較から述べた。 |
| 報告書 | | | |
| 1. ヨーロッパ諸国の保育政策に学ぶ | 2012. 8. 31 | 2012 年名古屋市大学連携講座報告書 | |
| 2. イタリア、ピストイア市の保育に学ぶ | 2012. 8 | 2012 年名古屋市大学連携講座報告書 | |
| 3. フランス・イタリアにおける子育て力育成の現状 | 2012. 9. 20 | お茶の水女子大学子ども学ブックレット、Vol.145-71. | 子育て力の危機と創生～エンパワーメントの視点から～、お茶の水女子大学 ECCELL. |
| 4. 子育て・子育て支援における支援者の役割と専門性に関する 4ヶ国共同研究最終報告書 | 2012. 6. 1 | 科学研究費助成(2009～2011 年度)最終報告書。日本学術振興会に提出 | 著者: 星三和子、上垣内伸子、向井美穂、塩崎美穂 |

| 学会発表 | | | |
|---|---------|--|-----------------------------|
| 1. 協働の保育(1)イタリア、ピストイアの実践 | 2012. 5 | 日本保育学会 第 65 回大会発表要旨集、 p. 415. | 著者:星三和子、上垣内伸子 |
| 2. 子育て・子育て支援に関する4ヶ国共同研究(4)支援現場の観察から | 2012. 5 | 日本保育学会 第 65 回大会発表要旨集、 p.835. | 著者:塩崎美穂、星三和子、上垣内伸子、 向井美穂 |
| 3. 幼児の感性と知性をいかに育むか | 2012. 5 | 日本保育学会 第 65 回大会発表要旨集、 p.142. | 著者:野原由利子、金田利子、星三和子 |
| 4. 0-1歳児が仲間を見るとき(1)社会性の発達の観点から | 2013. 3 | 日本発達心理学会 第 24 回大会論文集 p.206 | 著者:大竹信子、星三和子 |
| 5. 0-1歳児が仲間を見るとき(2)認知発達の観点から | 2013. 3 | 日本発達心理学会 第 24 回大会論文集 p.207 | 著者:星三和子、大竹信子 |
| 6. 子育て支援センターにおける母子保健事業との連携 | 2013. 3 | 日本発達心理学会 第 24 回大会論文集 p.207 | 著者:向井美穂、星三和子、上垣内伸子、 塩崎美穂 |
| 講演 | | | |
| 1. 多文化社会の保育 -OECD 保育白書 Starting Strong II を中心に- | 2012. 9 | 2012年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業プリスクールセミナー2012。西尾市。 | |
| 2. ヨーロッパの最近の保育政策と日本の現状 | 2013. 2 | 名古屋市小規模保育所連合会研修会 | |

2. 教育活動(教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

| | |
|--|--|
| 授業科目 保育の心理学 | |
| ◆前期 <input type="checkbox"/> 後期 | |
| 工夫の概要 | 教材・資料等の概要 |
| 保育者養成課程の授業として、実践に即しながら、実践の意味を理論づけることができるように、子どもの発達の諸側面の意味とその実際の例をビデオを交えてできるだけ具体的に講義している。 | 自作パワーポイント、配布資料。長年保育所各クラスで撮影してきた子どものエピソードの映像の自作ビデオ。 |
| 授業科目 学習心理学 | |
| ◆前期 ◆後期 | |
| 工夫の概要 | 教材・資料等の概要 |
| 受講者は幼稚園教諭と小学校教諭志望者のため、幼稚園と小学校の教育の相違と連携、および幼児期から小学校までの発達の連続性に重点を置いて、パワーポイントやビデオを使ったわかりやすい授業を目指している。 | パワーポイントと配布資料、歴史映像も含めた世界のすぐれた実践のビデオ映像。 |

| | |
|---|--------------------|
| 授業科目 乳幼児心理学 | |
| □前期 ◆後期 | |
| 工夫の概要 | 教材・資料等の概要 |
| 発達障害の理解と障害をもった子どもへの保育のなかでの対応に焦点を当てた。具体的な対応については、ハウツーではなく、障害をもっているが一人の人格として子どもと接すること、障害への基本的な姿勢を討論しながら教授した。最後に実地の見学を行った。 | 教科書、参考書、映画、実地見学など。 |
| 授業科目 発達心理学特講・特演 (大学院) | |
| ◆前期 ◆後期 | |
| 工夫の概要 | 教材・資料等の概要 |
| 文化と発達について、文献研究を行い討議した。院生の論文テーマに合わせ、修論の研究を進めるなかで視野を広げることがを目標とした。比較文化の相対的な見方によって、学校教育の諸側面に新しい視点を加えることができるように配慮した。 | 文献。 |

3. 学会等および社会における主な活動

| | | |
|-------------------------|----------------|-------------------------------------|
| 日仏教育学会理事 | 2008 年度～ (継続中) | 学会の運営、学会大会の企画、啓蒙活動、学者招聘等。 |
| 名古屋市大学連携講座 | 2012. 5～6 | 名古屋市の企画に大学から参加し、7回の連続講座のうち2回を担当した。 |
| AJU 自立の家 (社会福祉法人) 研修会講師 | 2012. 11 | 障害者自立を目的とする社会福祉法人のボランティア養成の講習会を行った。 |